

喜寿記念同期会に参加して

桜岡（竹内）優博（6組）

私は始まる 30 分前を目安に行ったのですが、受付へ着くと、既然大勢の同期生が詰めかけていました。そして、元気そうで、楽しそうに会話を楽しんでいる姿が目飛び込んできました。さて、私はかなり以前に開催された同期会に参加したことがあります。その時は皆さんまだ若く、はつらつとしている姿が印象に残っています。その時は参加者の顔を見て、誰であるかがすぐに分かりました。

ところで、今回久しぶりに参加を決めた理由は、自分自身がこの先、いつ人生が終るか分からない年齢になっているので、多くの同期生に会って、今までお世話になったことに対する感謝の思いを捧げる場にしたいかったということです。

それともう一つは、在学中に、ある同期生に、あることの誤解から、悪想念を向けてしまい、そのことに対してお詫びをしたいという思いがずっとあり、会えることを期待したからです。結局、この人とは会うことができないばかりか、回って来た名簿をみてびっくりしました。すでにこの世を去っていたのです。家に帰ってから、心の中でお詫びをしました。

さて、時間になり、写真撮影が終わり、自分の席に座って、やっと落ち着いて全体を見渡すと、誰が誰だかさっぱり分かりません。同級生でさえ、分からない方がいたくらいです。年齢を重ねるということは、こういうことでもあるんだと思いました。

私自身も、しばらくぶりに会った同期生から、誰だか分からないと言われました。

そうこうしているうちに、時間も進み、アルコールも程よく回り、楽しそうな会話があちらこちらから聞こえてきました。

そして恒例の各組、一人ひとりの挨拶や決意表明などがあり、ある同期生の研究成果がプリントで回って来たりしました。

最後に元応援団長の音頭で、全員が懐かしい誇り高き校歌斉唱をやり、2 時間 15 分があったという間に過ぎました。

思い切って参加して、楽しい懐かしい時間を過ごさせていただき、本当に良かった。

そして、同期会幹事の皆さん、大勢の同期生の皆さん、ホテルのスタッフの皆さんありがとうございました。心より感謝申し上げます。

次ページに写真



左から2人目が筆者



6組の皆さん、左から塩川、布施、小林千昭、筆者（桜岡）、小田切、笹沢

(2025年7月25日記)

以上